

安全に家に戻れることをみんなで願い、地域食堂をとまり木に、
温かいつながり作りとGPSも活用した模擬訓練を地道に続ける



～介護事業者と地域の多様な人たちが地域活動拠点を一緒に作り、
息長く活動を展開～

北見高齢者・こども110番の家
地域食堂「きたほっと」チーム

有限会社エーデルワイス
「きたほっと」理事

青山 由美子
熊谷 諭
(グループホーム 管理者)

「北見高齢者・こども110番の家」これまでの経過

2005年 認知症の人のグループホーム「エーデルワイス」開設

2011年 行方不明から安全に戻れる事を願う会 発足
3年間に渡り北見市まちづくりパワー支援事業に採択され
認知症高齢者の行方不明者搜索活動を市民へ啓発・普及

2012年 北見高齢者110番の家 発足
北海道の助成を活用し、地域食堂「きたほっと」開店

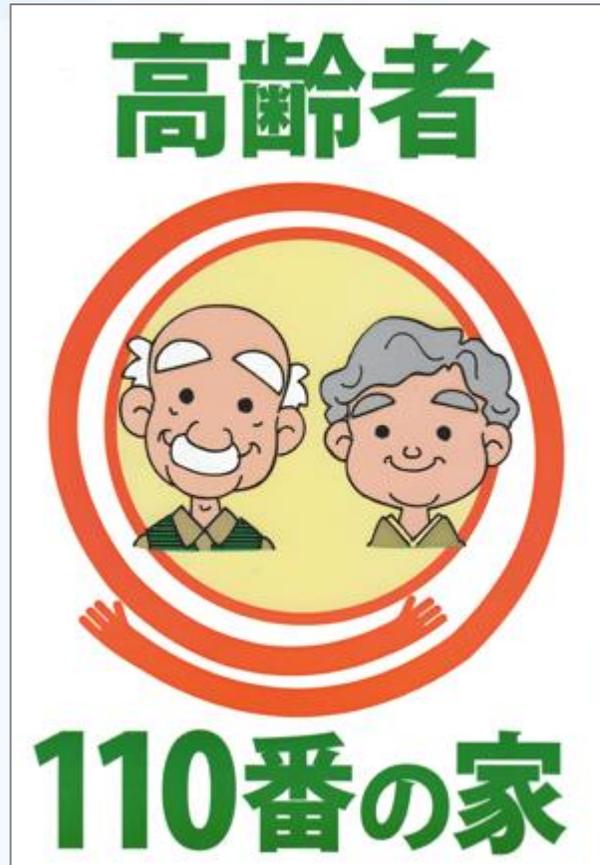
2018年 行方不明から安全に戻れる事を願う会と北見高齢者110番の家を統合し、北見高齢者・こども110番の家

シールは、両方展開中

高齢者110番の家 ステッカー

高齢者が駆け込みできる家に配布

認知症サポーターが居る家に配布



高齢者・こども110番の家の目的・役割

地域食堂を基盤に高齢者のみならず、地域のこどもも共に参加し、互いが出会えて良かったと思え。自然と助け合いの精神を育みながら、高齢者は、これまでの経験と知識を活かして役割を担う事ができ、互いが生きいきできる場となることを目的とする。

- 食を通じた拠り所の場
- 年に数回こどもを交えたイベントを開催
- 新規の地域交流の場の設立相談、支援
- 認知症の理解と啓発及び搜索依頼時の2時間の対応
- 認知症サポーター養成、講和、警察との連携、研修会の開催
- 大人でも行方不明になることの地域への理解と搜索模擬訓練の継続
- 学生、専門職の研修、地域ボランティアの活躍の場

ここに至るまでの経緯・・・は、

- 認知症を患う人に対する偏見・・・なんとか打破したい！
- 近隣の地域で、目的へたどりつけない行方不明からの死亡事故があり『認知症の人をお世話させていただく自分たちが動き出す時期だ！』という思いを同じにする専門職の人たち、地域の人たちが集うことができた。
- 地域に関心を持つ人たちの様々の集まりの輪が広がり、その塊それぞれが地域で力を発揮しだすとともに、110番の家を拠点に緩やかにつながった。
 - ・北見市独自の認知症の人へのボランティア養成の始まり
 - ・市民後見人制度の開始
 - ・地域包括支援センターと事業者との連携
 - ・学校における先生等の意識の改革からの生徒の変容
 - ・北見警察署の認知症の学び
 - ・民生委員・一般企業・金融関係等の地域への関心をもつ人々

設立会議



開設



集い



縁

縁

初代の会長
は元教育長



福祉関係者・社長仲間
三木副会長、高橋副会長



一緒に、自分の身近なこととして
サポーター養成講座を継続開催



手打ちうどん実演：認知症の人の力を知る。

ネットワークのほんの一部



縁

地域お世話係り今は亡き
初代ボランティア長老

金融機関支店長
毎年夏祭り全員参加



縁

介護者である
息子さんも元会長

縁

認知症の人と家族の会
事務局長(元職場同僚)

西部Uさん達

簡単な
体操

地域交流
第2土第4火、
2回



協力者 会長

認知症予防
進行防止

50代地域交流から、
初めて勤務へ



縁



縁

町内新生町
世話人 よねちゃん



元、会
計Sさん

縁

北見市認知症ボランティア講
座終了から就任 吉田理事

縁



すみこさん 紙芝居ボランティア
本人発言の場:東京へ

縁

安否の
確認



事務局

楽しみ!
食事

通報前の行方不明
の人発見:元会長



縁

気づかい満点少年



縁

精神科ソーシャルワ
ーカー 理事

縁

北見市福祉課職員、
南部高齢者相談支援
センターの皆さん



町内民生委員
細川 さん

縁



認知症があっても、自由に安心して歩けるように・・・
介護する夫から本音を聞かせていただく！

祭り



縁



講師は、介護する夫。
皆様へのお願い。

『(妻を)
自由に歩かせたい！』

*もともとは、グループ
ホームの高齢者らに優しく
接していただけっていた
地域の協力者でした。

学びの場には・・・

行政・地域包括、介護支援専門員、福祉に勤務する人々、
町内会役員、地域住民、民生委員、認知症の人を介護する人。

★ご家族、そしてご本人の発言を重要視！



縁

認知症の人の声を大事に

本人同士でじっくり語り合える場：当事者から学ぶ場をつくろう！
(本人ミーティング)



地域のとまり木 きたほっとで

参加者：当事者

(同席)医療ソーシャルワーカー、
介護支援専門員、会員、
地域包括職員、看護師
福祉関係者等

- だんだんできなくなって情けない。
 だけどできることをやっていると楽しくなる、元気がでてくる
- 行きたいところに連れていってもらえることが、本当にうれしい。
- (若い認知症の人) やりたいこと…ふだんはあまり考えてみなかったけど…
 バレーボールやってみたい！ できるところがあったらいいなあ。

当事者からの学び

(参加者 気づき)

- ふだん、そばにいるのに、自分たちは、ゆっくりお話を聞かせていただく場面はなかった
- 本人の話を聞いていたつもりだったが、ほんとはこんな願いがあったなんて。一人ひとり、願いがあるんだ。もっと話をききたい。
- (本人同士で)話しあって、親身に聞いてくれる人がいる、その喜びが伝わってきた。

* 聞いておしまいにしない。

ふだんの中で、そして地域で一緒にできることがないか、話し合う。

- 一人では難しくても、願いをかなえたい人たちが一緒に動いてみる
- 本人とバレー好きな人が一緒に、バレーボールが実現。

中学校 福祉の時間 3時間



縁

代々引き継いで推進役を担っている
北見市東相ノ内中学校渡辺先生：
元息子の担任

お笑い仲間



『総合的な学習の時間』の福祉分野における取り組み 北見市立東相内中学校 渡辺先生より

- 受講中、生徒は受身であったが、ワークショップを行っていくうちに、高齢者特に認知症の方々にどう接したら良いのかを真剣に考える姿がみられた。
- 翌年の生徒は、高齢者の方々との交流の意味で千羽鶴をおばあちゃんにプレゼントした。おばあちゃんが学校へ来てくれたことに、あまり日頃接する事のない生徒等はとても喜んでいました。
- 学校の周りの施設の高齢者に学習の成果もあり、生徒は明るく挨拶しやさしく接している様子がある。
- この福祉の学習では、普段学校では学べないことを多く学べる大変重要な学習としてこれからも計画をしていきたいと考えている。
- 学校と高齢者施設という一見離れたポジションにあるもの同士が、お互い一歩踏み出したことによって、地域社会に貢献できる内容を精査するとき、何を取り組ませ、何を学ばせるのかを悩む学校は多い。そこで『認知症のサポーターの資格がとれます。』とか、『高齢者と交流しませんか』などと、お声をかけさせていただく機会ができると思われる。
- 地域の活性化にもつながるこの取り組みを学校からという考えで続けていきたい。

捜索模擬訓練では 生きたロールプレイ(役割演技)と振り返りを実施

生の演技から覚える。

- 通報する家族役
- 受け付ける地域包括支援センター(家族へ早期の通報を促す)
- 家族から警察へ通報(警察登場)
- ・ 電話の相手を確認
- ・ 行方不明者を見かけた時間・年齢・体の特徴・服装・歩き方・体格・
体のキズ等
- ・ SOSネットワークへ連携
- ・ 警察から市役所へ連絡
- ・ 市役所が「あったかメール」を配信
コンビニ・ガソリンスタンド・該当包括へFAX
- ・ 実際の捜索

地域包括

町内会

連合町内会

地域住民

警察

福祉関係者

捜索に実際に動くこと・地域での捜索模擬訓練から 住民への周知が進んでいる

模擬訓練時に
認知症
サポーター養成
を必ず実施
警察官も一緒に



地域の命を 地域で守る

行方不明者 搜索模擬訓練の様子



警察からのお話と行方不明時の対応方法も学びます。



SOSネットワーク
事業所は、行方不明の
心配のある方のふだんの
写真を取り、同意のもと、
いざという時に
写真を活かして連携します。
24時間受付電話を
市は持参です！



高校生と地域住民と一緒に搜索



高校生が行方不明者へ声掛けの練習

訓練を通じて、ますますのSOSネットワークの強化の必要性を
みんなが実感的に体験します。

行方不明者 搜索模擬訓練の様子

高校生からの意見



女性から男性に声掛けするのは怖いです。

普段から家族とコミュニケーションとることが大切だとわかりました。

いろんな試みをし、そして
探しても、探しても発見ができない！

行方不明になったままの人も・・・

⇒GPSをもっと活かさないか

*市のGPSの貸出制度はあったが、利用・活用されていなかった・・・

1) 実際に手にしやすい、役立つGPSをつくりたい

平成25年

話し合いを重ねる：本人が納得して持って出歩けるGPSが必要

- ・もっと、小さなGPS
- ・もっと、軽いGPS
- ・水の中でも発見できるGPS
- ・もっと、安価なGPS

もっと性能が良く、実際に使えるGPSが作れないのか！

⇒そうだ！事務局からドコモへお願いしてみても・・・

会の事務局・会員がアタック！

そして・・・できました。

ドコモへ 命を守るためにつくってください〜い！と何度も依頼！

位置情報検索サービス

おさんぽさん 

従来の端末よりも小型・軽量・防水で、電池が長持ち。

無理なく身に付ける事で認知症高齢者を見守ります。

徒歩と車等の移動の違いがスピードで判明

認知症高齢者向け 位置情報検索サービス おさんぽさん



ドコモに依頼し、できました！

- ◆開発途中のアイデア出し、試行実験に会が全面協力
- ◆必要な人が手にできるよう、安価な設定で
- ◆販売・メンテナンス等は、地場の企業
*社会貢献的に



位置情報検索サービス

おさんぽさん

位置情報検索サービス **おさんぽさん** Kitami Computer Business

メインメニュー demo17

📢 お知らせ 🏠 ログアウト

🔍 位置を探す

🕒 履歴を見る
履歴から地図表示します。

⚙️ 各種設定
契約者情報やパスワードの設定を行います。

サイトポリシー 利用規約 お問い合わせ

提供元: Kitami Computer Business

位置情報検索サービス **おさんぽさん** Kitami Computer Business

位置表示 demo17

🕒 09月05日 21時26分

📍 北海道北見市山下町3丁目 付近

🔍 第三者により検索されました

📍 ★★ ★

📍 北緯43° 48' 18" / 東経143° 53' 10"

模擬訓練でも実際に活用。
繰り返すことで、
地元の人たち・年配者も、
少しずつ馴染んできています。



会が、活動を継続するために大切にしていること

2005年、認知症の人への偏見を知った地域の出来事から、介護事業者(企業)発で地域への理解を広げる動きをスタートさせたが、困難の連続・・・こそが未来につながる近道だった。

→困難のたびに、仲間との結束が強まったとともに、それまでとは異なる領域の人たちの力を借りることにつながり、は未来へ通じる近道だった。

※グループホームの場とスタッフの力を地域と活かし合う。

24時間365日
地域の中にある。
(事務局機能、開かれた場)

※ 認知症の人の声、思いを、みんなが自分ごととして。

食堂のお客さんだった人が
今では、頼りになる
ボランティアさん！

※ ふだんから、いざという時まで、人の暮らしの流れにそって。

※ 出会い、縁を大事に、つながりを互いの喜び、地域で共にやれることの力にしていこう。

※ 一人一人が自主性を大事にしあう。

きたほっとは、みんなの集まりの場であり、志を同じくする人々が、思いや知恵、力を寄せ合う場！

→多様な立場の人がスクラムを組む。

※ こだわりすぎず運営していく。

「無いから、やらない」でなく
「やるべきことのために、
仲間と動く！仲間を増やす」

※ 誰でもが、無条件にほっとできる場を。



手作りの沢庵の差し入れ
縁の下の力持ちの人達



美味しく食べて、元気にな～れ！
ふだんからの温かいつながりが
いざという時のパワーと
世代を超えたバトンタッチに。



みんな願いは同じ。
いくつになっても、認知症になっても
自由にでかけ安全に家に戻りたい！
これからも、一緒に。